

館報まつさき

がんばろう
末崎!
津波なんかに
負けない!

末崎町文化祭中止

末崎地区公民館では、再び新型コロナウイルス感染症が拡大していることから、文化祭の運営に携わっている方や出演者、そして来場の皆様への感染リスクを回避するため、本年の末崎町文化祭は中止するべきと考へ、文化祭実行委員である各部門の代表者ならびに各地域の公民館長にご意見をお伺いしました。

その結果、文化祭の「中止はやむを得ない」とする回答をいただきました。文化祭は中止といたします。

これまで出展、出演を予定しご準備されておられた皆様、そして今年秋には足を運ぼうと考えておられた皆様には大変申し訳ありませんがご理解とご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。

新たなまちづくり 市政懇談会

復興後の新たなまちづくりに向けて、市政懇談会が7月30日、ふるさとの方々に30人参加し、末崎町大船渡市は、平成23年度に策定した「大船渡市総合計画」は、令和2年度が最終年度になることから、長期的な視点

末崎町の石碑・祠・神社(36)

念仏供養塔について ~ その3
(5) 中吉丸の乗組員6人の内、3人は末崎出身
末崎出身の3人は、3人とも西館周辺の人で、その中に清吉という人がいて、その人は小細浦から西館に養子に入った人でした。この念仏七百萬遍の石碑の下部に、念仏講中の氏名があり、その中に「清吉の母」と彫られている。

この石碑は清吉の実家の母が、中吉丸が小友を出港してから、すでに4ヶ月が経過しているのに、息子はすでに亡くなっているものと諦めて、小細浦の念仏講中と共に、念仏を七百万遍もあげて成仏を願い、供養したものだと思われる。この石碑を建てた後、間もなく清吉が無事に銚子港に帰ったことが知られるのである。

末崎出身の乗組員は、清吉の他に徳松(篤松)と三蔵で、その後三人とも長寿をまっとうしている。



天保十一庚子歳
梵字 念 仏 七 百 萬 遍
三月吉祥日
小細浦 念仏講中

世話人	一乗院母
長口母	市兵衛妻
伊口相口	永吉妻
新十良母	口左エ門妻
勘四良母	卯吉母
治助母	五四良妻
留之介母	五口口妻
清吉母	口五良母
福之介妻	久三良妻
平太夫妻	口四良母
治太夫口	口太良妻
徳四良妻	

石碑の下方に彫られている念仏講中の名前。上段の左から5番目に清吉の母がある。口は、判読不明。
世話人の一乗院母は、熊野神社宮司の母

に立つて、持続可能で自立した地域社会を創るため、令和3年度を初年度とする新しい総合計画の策定を進めている。

このことから、市では市民の提言を次期総合計画に反映させるため、7月16日から8月24日までの日程で市内各地区に市長はじめ各部長が出向き懇談会を開催している。

末崎地区における市政懇談会では、はじめに戸田市長が市の取り組みについて説明した。内容(要点)は以下のとおりである。

将来の大船渡市を考えると、テーマは二つ。一つは震災からの復興の「総仕上げ」と整備後のモノ・コトの「活用」。二つ目は人口減少の「歯止め」である。これらを踏まえた施策を展開しながら、「持続可能なまちづくりを実現」する。

1 震災からの復興の「総仕上げ」と整備後のモノ・コトの活用
大震災から9年。取組と成果、課題をあげると、事業数で約87%が完了。または目的達成。金額的には約95%まで進捗している。

これから取り組むべきこととして、完成に至っていない事業の迅速かつ丁寧な仕上げ。

復興により整備・構築されたモノ・コトの積極的な活用として

今後の具体的な課題として

①市中心部の復興まちづくり活用
②市中心部以外の被災跡地の利
③被災者の心の復興等への支援

④モノ・コトの活用から、持続可能なまちづくりへの展開
の4点を挙げた。

2 人口減少の歯止め
①人口減少が進む大船渡市
大船渡市の人口は減少が続いている、平成2年と平成30年を比較すると122,222人減少(△26.7%)している。

- ・年少人口(15歳未満人口) 5,000人(△58.1%)
- ・2人産婦人口(15~64歳人口) 1,247人(△39.3%)
- ・老年人口(65歳以上人口) 6,254人(増90.6%)

②大船渡市の人口動態の推移
・自然減(出生数が死亡数を下回っている)

③社会減(転入が転出を下回っている)
・大船渡市の出生数・合計
・出生数は減少傾向。平成2年と平成29年を比較すると△56.2%、272人減。

・合計特殊出生率は減少を続け、平成16年に1.30を底に若干増加。平成21年以降は増加傾向にあり、平成27年は1.81、平成28年1.63、平成29年1.61となっている。

・合計特殊出生率とは、一人の女性が一生に産む子供の平均数。

④このまま進むと10年後には人口3万人未満に

2035年(令和17年)には高齢者を支える状況が肩車のようになる。令和元年12月現在の35,849人、令和12年31日には、3万人を切る見込みである。

⑤人口減少が与える影響
人口減少は市の財政、地域経済、医療・福祉・介護、教育・子育て、交通・住まい、コミュニティなど、様々な分野に甚大な影響を及ぼす。地域を持続させていくためには人口減少に歯止めが必要。

喫緊かつ最重要課題として、施策を総動員する。

⑥大船渡市の人口ビジョン(減少をより緩やかに)
・合計特殊出生率を1.61から1.8に、さらに2.1に上昇。
・年間転出入数均衡へ。
⑦人口減少はすぐには止まらな

人口の自然増減が均衡する目安は合計特殊出生率2.1以上。しかし、合計特殊出生率2.1を達成しても、直ちに人口減少が止まるわけではない。少なくとも80年から90年かかる。故に、人口減少に歯止めをかけるには、長期にわたる、合計特殊出生率2.1を維持する努力が必要である。

3 大船渡市総合計画の重点ロードマップ
令和元年度に策定した第2期大船渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略を進める。

①総合的な戦略で地域活性化に取り組む
人口減少に歯止めをかけるため、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略を多様な主体と協働で展開。

②持続可能なまちづくりの実現
復興需要のピークは過ぎたが、市内経済は震災前に比べ高い水準となった。しかし、昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大により経済は下振れの見通し。

・手厚い支援策を講じながら新型コロナウイルスとの共存し、新型コロナウイルス前の状況に回復させて、持続可能なまちづくりを実現する、と取り組みについて説明した。

◎末崎町民からの要請

- 1 碓氷の砂利が波によって持っていかれるので、沖合に波よけブロック等投入するなど対応策を講じてほしい。
- 2 碓氷のゴミ処理について、どう処理すればよいか。
- 3 観光客からトイレがないかと聞かれるのは恥ずかしい。碓氷の近くにトイレの設置をお願いしたい。
- 4 小原地区の銀河農園前がバス路線になったことから歩行者の通行が厳しい。側溝に蓋をかけてほしい。
- 5 市営球場に照明施設を設置してほしい。
- 6 新県道が整備されれば中学校前の道路の通行量が増す。しかも、大型のバスが通行すると思われるので道路の拡幅をお願いしたい。特に滝田医院のところが狭いので配慮願いたい。また、内陸との交流道路についても検討してほしい。
- 7 ILCに対する現在の取り組みについて、説明を求めたい。
- 8 民宿一海さん(前)の土地について、被災跡地利用という観点から、復興協議会では復興まちづくりプロジェクトの一環として「浜の停車場」構想がある。配付の図面のようないろいろ考えている。考慮願いたい。要望、意見、提言がなされた。

★末崎中学校運動会
日時 9月5日(土) 午前8時
場所 末崎中学校校庭
30分前縮小して実施する。
の観点から縮小して実施する。